

運動保安闘争と検修対策委運動を両輪に

木更津支部第五回定期委員会は、支区講習室において開催され、「60・3」大合理化攻撃―動乗勤改悪阻止闘争の一定の勝利と「3・24三里塚」5割決起をバネに、軍事大国化―改憲攻撃、臨調・行革―首切り「三本柱」攻撃と徹底対決しぬく意志統一の場として極めて意義深くかつ熱気あふれる定期委員会であった。

「60・3」「3・24」実力決起がきりひらいた地平に確信 ― 斉藤支部長あいさつ ―

白石洋委員を議長に選出して開始され、冒頭、あいさつに立った斉藤支部長は、①「60・3」闘争の経過と総括、②春闘情勢、③「過員」攻撃に対する闘い、の三点について明らかにした。特に、「60・3」について、ダイヤ検討の立ち遅れを反省しつつも、非協力・安全確認行動を全組合員の決起で勝ちとったこと、そして下期に予定されている「検査周期延伸」攻撃と対決しぬく決意を明らかにした。

活発な質疑・討論を展開

本部を代表して山口副委員長より、情勢・方針の提起をうけたのち、経過報告、暫定予算案等の提起につづいて活発な質疑・討論にうつった。主な主張は、①交B廃止、検査周期延伸に伴い、車両故障が顕在化する恐れがあり運動保安上問題だ。徹底的に闘おう。②自らの職場を守り、拡充していく意味で「検修対策委員会」の発足は意義深い。積極的に参加していく。

- ③「60・3」動乗勤改悪―労働強化に伴い、二月二〇日の土砂流失の件もあるように、特に運転保安面を重視する必要がある。
 - ④国鉄労働運動解体攻撃と対決するために、「反合一三里塚」の旗のもと支部総体として「ワッペン」―カーテン」を闘っていききたい。
 - ⑤55年予科の乗務員見習い、56年予科の学園入学の件。
 - ⑥EC転換実施および第二次現車訓練の見通しの件。
 - ⑦久留里線の将来展望について。
 - ⑧無人駅客扱いに関係して「車掌一人乗務」化に伴う乗務員への負担が増大している件について。
 - ⑨青年部運動活性化のため、支部交付金のアップを。等、種々の問題について質疑・意見が熱心に出し合われ、全員の意志統一がなされた。
- われわれは、委員会の成功をふまえて、運転保安闘争と検修対策委員会運動を両輪として職場生産点からの闘いを構築していく。そして当面、謀略的組織破壊攻撃粉砕・春闘勝利のため、4・16津田沼での動労千葉総決起集会へむけ最大限決起をかちとる決意である。
- (木更津支部通信員・発)

木更津支部定期委員会開催

国鉄「分割・民営化」阻止／三里塚二期着工粉砕／

津田沼支部で検修職場集会(4/10)

四月十日、津田沼支部検修分科全組合員による昼休み集会在、重見副支部長、綾部支部書記長、布施本部書記長、片岡本部執行委員の参加を得て開催されました。

検修合理化、謀略攻撃のうちくだき総決起する

集会は、十二時、杉本君（本部青年部常任委員）の「現在の検修職場の実体と、将来展望について、全体で討議していききたい」との司会で開会され、本部布施書記長より次のような情勢・方針の提起をうけました。「情勢は、十八万八千人体制に向かって踏み出した。『60・3』で津田沼電車区乗務員関係で六〇〇七〇名の『過員』が強制された。検修部門も、今、台検作業の廃止や回帰キロの延伸等を通して、『

過員』―首切りを策動している。全国的に強行攻撃が続いている状況下で、千葉は『60・3』『3・24』を大衆的実力決起で闘い、組織力を強化してきた中でこれを押しかえしてきている。焦り頂点に達している当局は、ワッペン―遮光カーテン問題などを通して、何とかわれわれの闘争力・組織力を崩そうと必死である。当局の攻撃は、すべて動労『本部』革マルを先兵として加えられている。このような中で、津田沼拠点に謀略攻撃が集中している事に最大限の警戒心をもって毅然と闘いぬいていかねばならない。動労『本部』

は組合の名をもって組合員を『出向』首切りに追いたてる事により、全国的に不満と動揺が拡大し、自殺・脱退・組合費不払等々がおきている。われわれはどんなことがあると、こんな『組合』にだけはなつてはいけぬ。昨日、国労中央は、『三本柱』をのんだ。われわれは『三本柱』の一項については、二項、三項とは別問題であるとの立場で、公労委も含んで主張し闘っている。労働者としての原則点を絶対に捨てないでがんばりぬき、八五春闘に勝利しよう」と提起しました。

このあと、学園入学、検修職場の将来など質問と討論をして、当面、本日からの全員オルグと、四月十二日国労青年部との共闘集会、四月十六日動労千葉総決起集会を圧倒的にかちとることを確認して成功裡に終了しました。

(津田沼支部通信員・発)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！